

花鳥風月・俳句

彼岸花散れば老婦と良い散歩

秋蝶黒き田畑の上に飛ぶ

長寿して我が身も時の経つなかに

氏神の枯木の掃除若宮司

藤田盛男

山笑う楽しさ抱え土いじり

啓蟄や天地返しの上の色

小野弘幸

初稽古童謡ひびく公民館

雲ふたつ七草粥の香りかな

人と会う楽しさ解る成人式

石井 トシ子

寒雀飛びたつ声の騒がしき

ひらひらと垣根越へきし落葉かな

鈴木 伊都美

来て見れば雪げの川べ雪の地ぞう

野の中にかがやきて一本雪の道

曾我部 福石

元気でね賀状に太くある一行

越智 恵美子

シャツターの降りる街中寒さ増す

月冴ゆる見てるだろうかあの人も

明星 勲

待ち侘びし新年句会マスクして

オミクロン冬の静けさ突き破る

徳永 誠一

コロナ禍に年賀に帰る娘を案ず

子育ての最中親にもお年玉

三浦 シズ子

桃割に花かんざしで初詣で

ママ振で成人式へ出席す

転院の見舞もできず寒椿

小林 泰子

ひらひらと小袖にのるや初雪よ

吊橋に響く川音初鴉

篠原 高代

大銀杏少し青やぎ春が近

とうとうやこんがりやけた餅おいし

加藤 イサ子

春風においを送る花木たち

酒井 三重子

代々をカブスと知りて卒寿かな

白石 ヨシエ